

重点 目標	具体的 目標	担 当	評価の観点	評価：達成度判断基準	判 定	達成状況（◇結果 →改善方針等）
1 確かな学 力を身に 付けた児 童の育成 （知育）	基礎的・基本 的な知識及 び技能の確 実な習得を 図る。	研究主 任	（満足度指標） 学習意欲を高め、「わかる授業」を工 夫して行い、基礎的・基本な内容の定 着を図っている。	「学校評価（児童アンケート）」において「授業の内容がよくわかる」の項目で『肯定的な評価』の割合 A:児童の90%以上 B:児童の80%以上90%未満 C:児童の70%以上80%未満 D:児童の70%未満	A	◇94.2%で肯定的な評価の割合が高い。指導者が考えをもたせるための手立てをしつかりと準備し授業に臨んでいることが数値に表れている。 →今後も、児童の実態を把握し、わかる授業づくりを行っていく。
		研究主 任	（成果指標） 各学年において、基本的な漢字・計算の力が身に付いている。	「計算・漢字・ローマ字コンテスト」で満点・合格（90点）の割合 A:児童の90%以上 B:児童の80%以上90%未満 C:児童の70%以上80%未満 D:児童の70%未満	C	◇75.9%であった。漢字コンテストが57.7%と低い。 →コンテストに向けて、計画的に学習を進める。日頃の積み重ねも必要なため、宿題の課題確認の徹底も大事にしていく。
	思考力・判断 力・表現力等 の活用力の向 上を図る。	研究主 任	（成果指標） 自分の考えを不足なく表現すること ができる。	「不足なく表現することができ（診断テスト）」の割合 A:正答率60%以上 B:正答率50%以上60%未満 C:正答率40%以上50%未満 D:正答率40%未満	B	◇59.5%であった。「授業の内容はよくわかる」という児童の割合は多いが、不足なく表現する力はまだ弱い。 →不足なく表現している児童の姿を教師が明確にもつ。ひらめきカードで表現に取り入れるる言葉の確認をしたり、正しい表現の仕方を提示し自分の解答と比較したりする時間を確保する。
2 豊かな人 間性を 持った児 童の育成 （徳育）	ICT機器の活 用をさらに充 実させる。	研究主 任	（努力指標） ICT機器を活用し、分かりやすい授業 改善努めている。	「学校評価（教員自己評価アンケート）」において「クロームブック・ICT機器を活用し、分かりやすい授業改善に努めた」の項目で『肯定的な評価』の割合 A:教員の90%以上 B:教員の80%以上90%未満 C:教員の70%以上80%未満 D:教員の70%未満	B	◇A評価66.7%、B評価22.2%、肯定的な評価88.9%であった。ICT機器は日常的に活用している。 →GIGA推進リーダーを中心に、効果的な活用をミニ研修を通して共有することとで、今後もより良い授業づくりを行う。
		研究主 任	（満足度指標） 「ペタ・ピン・トン・目力」（アインタクト）を意識して、話をしっかりと 聴いている。	「学校評価（児童アンケート）」において「ペタ・ピン・トン・目力に気を付けて、友達の意見や先生の話をきいている」の項目で『肯定的な評価』の割合 A:児童の90%以上 B:児童の80%以上90%未満 C:児童の70%以上80%未満 D:児童の70%未満	B	◇86.5%であった。姿勢保持や話を最後まで聞くことが苦手な児童がいる。 →姿勢を正して話し手に視線を向けて聞く、伝わる声で話す等、話し手も聞き手も互いに相手意識をもてるように声かけをしていく。
	家庭学習の習 慣化を図る。	教務主 任	（成果指標） 各学年の学習時間を守って、家庭学 習に取り組んでいる。	家庭学習週間（7日間）で学習時間を守って取り組むことができた平均日数値 A:学習週間の90%以上（6.3日以上） B:75%以上90%未満（5.25日以上6.3日未満） C:60%以上75%未満（4.2日以上5.25日未満） D:児童の60%未満（4.2日未満）	B	◇6月の家庭学習週間での結果は5.4日だった。学習時間は60分の高学年が、平均日数が低い。 →取組の意図を児童と共有し、日頃から家庭学習時間を意識して取り組ませる。また、十分に学習ができる内容の宿題を出すように心がける。
3 健康でた くましい 心身を持 った児 童の育成 （体育）	読書活動の 充実を図る。	図書担 当	（努力指標） 読書記録や図書館利用など読書活動 の推進のための指導を行う。	「学校評価（教員自己評価アンケート）」で「学年に応じた本を読ませたり、図書館利用など読書活動の推進に心がけた」という項目で『肯定的な評価』の割合 A:教員の90%以上 B:教員の80%以上90%未満 C:教員の70%以上80%未満 D:教員の70%未満	A	◇100%肯定的な評価であった。特に国語科の授業で学年に応じた本を読ませる取組を行い、読書活動の推進を心がけることができている。 →今年度は、学校研究の基盤づくりの取組に読書の推進を組み込んでいる。学校全体で並行読書等の読書活動の取組の充実を図っていきたい。
		道徳教 育推進 部	（努力指標） 道徳科の授業で、全学級で年1回以上 ゲストティーチャーを招いた授業を 実施し、道徳教育の充実に努める。	年間1回以上道徳の授業でゲストティーチャー（GT）を活用したか。（実績調査） A:全級（8学級） B:7学級以下 C:4学級以下	D	◇全学級未実施。 →GTを招いた授業は10月から12月に実施予定。そのほか道徳通信の発行や、道徳の柱の学習掲示等を通して、児童が道徳的価値に触れ、考えを深める機会を設けながら、道徳教育の充実に努めていく。
	問題行動の未然防 止・早期発見・早期 対応の充実や相談 体制の充実を図る。	生活課 長	（満足度指標） いじめや問題行動等の未然防止や早 期対応に、組織的に対応している。	「学校評価（教員自己評価アンケート）」で「いじめや問題行動等の未然防止や早期対応に取り組んだ」という項目に『肯定的な評価』の割合 A:教員の90%以上 B:教員の80%以上90%未満 C:教員の70%以上80%未満 D:教員の70%未満	A	◇A評価100%から肯定的な評価が100%であった。 →今後も、職員向けの生徒指導だよりやいじめ対応アドバイザ・研修等も生かして未然防止に向けた取組を進め、予兆が見られたケースに早期対応していく。
4 特別支援教 育	体力向上の取組の 充実により、積極 的に運動する児童 の育成を図る。	体育担 当	（達成指標） 体力アップ1校1プランの目標を達 成できるように取り組んでいる。	・1学期の体力・運動能力調査で実施する「50m」と、2学期の追跡調査で実施する「50m」の記録を比較する。スポチャレいしあわ40mに取り組組んだ割合。 A:全学年 B:5学年以下 C:3学年以下 D:2学年以下	A	◇1学期にスポチャレいしあわを6学年で実施。 →1年生から6年生の学級で実施することができた。 今後、宇出津っ子ロードレース等学校行事の機会を生かし、児童の体力向上を目指す。
		保健主 事	（努力指標） 折に触れ、早寝・早起きなど、生活習 慣に関する指導を行う。	「学校評価（教員自己評価アンケート）」で「折に触れ、早寝・早起きなど、規則正しい生活が身につくよう指導した」という項目で『肯定的な評価』の割合 A:教員の90%以上 B:教員の80%以上90%未満 C:教員の70%以上80%未満 D:教員の70%未満	A	◇A評価70.0%、B評価30.0%、肯定的な評価100%であった。 →ステップアップウィークの取組や保健だよりを活用した担任による指導を通して、今後も学校と家庭とで連携しながら、児童の意識を高めていく。
	「いのち」を 守る安全教育 の充実を図 る。	安全担 当	（努力指標） 感染症・熱中症対策や交通安全指 導、避難訓練など、児童の安全に関 する指導を行う。	「学校評価（教員自己評価アンケート）」で「児童の安全のための指導や取組を行った」という項目に『肯定的な評価』の割合 A:教員の90%以上 B:教員の80%以上90%未満 C:教員の70%以上80%未満 D:教員の70%未満	A	◇A評価72.7%B評価27.3%、肯定的な評価100%であった。 →地震・津波の訓練では、町教委から配付のヘルメツトをかぶる訓練も行った。どのような状況でも「いのち」を守る行動がとれるよう指導している。
5 家庭・地 域との連 携、協働	個に応じた 支援体制を 推進する。	学芸主 任	（努力指標） 困り感をもつ児童が楽しく学校生活 が送れるように努める。	「校内支援会議」「児童理解の会」「校内委員会」「校内研修」等を開いて、教職員の共通理解を図ることができた。（実績調査） A:8回以上 B:5～7回 C:3～4回 D:2回以下	A	◇校内支援会議3回、児童理解の会4回実施。定期的な児童理解の会で情報交換ができている。 →学校生活における不都合さや対応については支援会議で検討した後、共通理解を図り進めることができた。校内研修等でより専門的な手立ても検討したい。
		教頭	（満足度指標） 学校だよりや学年だよりの発行、 ホームページ等により、保護者が児 童の様子や学校の活動内容が伝えら れていると感じている。	「学校評価（保護者アンケート）」で「学校は、児童の活動の様子を各種便りやHPなどで知らせてくれている」という項目で『肯定的な評価』の割合 A:保護者の90%以上 B:保護者の80%以上90%未満 C:保護者の70%以上80%未満 D:保護者の70%未満	A	◇A評価69.6%、B評価29.1%、肯定的な評価98.7%であった。 →学校ホームページは毎日更新しており、児童の様子や活動内容を保護者に発信している。学校だよりでもホームページについて記載し、周知している。
	地域の人材・教材を活用 し、地域の教育力を生か したキャリア教育・進路指 導を行う。	キャリア 教育推進 部	（努力指標） 地域の教材や素材を活用して、地域 の教育力を生かした授業を積極的に 行っている。	年間1回以上地域の教材や素材を活用したか。（実績調査） A:全級（8学級） B:7学級以下 C:4学級以下 D:2学級以下	A	◇全学級で地域人材や素材を活用した授業を行った。 →校外学習等で地域に出かけ、地域の良さを体験する学習をすることができた。2学期には地域人材を活用した授業も各学級で行う予定である。
6 信頼され る学校づ くり	校務分掌への積極的な取 組を行い、日々の業務と 職員の協働に努める。	教頭	（満足度指標） 校務分掌への積極的な取組を行い、円滑 な学校運営の推進に努めている。	「学校評価（教員自己評価アンケート）」で「校務分掌の積極的な取組」という項目に『肯定的な評価』の割合 A:教員の90%以上 B:教員の80%以上90%未満 C:教員の70%以上80%未満 D:教員の70%未満	A	◇A評価63.6%、B評価27.3%、肯定的な評価90.9%であった。 →企画委員会や二部会で取組を確認し、各自が責任をもって校務分掌の取組を行っている。担当が周りに相談しやすい雰囲気づくりにも努めている。
	業務改善と 計画的な業 務遂行に努 める。	校長	（成果指標） 業務を計画的に、見通しをもって行い、 時間を意識した業務遂行に努めている。	時間外勤務時間が月80時間以内を達成できている教職員の割合が A:100% B:80%以上 C:60%以上 D:60%未満	B	◇4月～9月期間のフルタイム勤務者で、80時間を超えた総数は7人であった。昨年度より1人増えたが、割合は92.2%である。 →業務改善の意識を持ち続け、削減できる業務は見直ししていく。